

第10回 駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会

—駿河湾の大气・海洋・陸域・海底相互作用—

日 時：2018年3月9日（金） 13:00-17:00
場 所：東海大学海洋学部8号館8205教室
共 催：一般社団法人水産海洋学会，東海大学海洋学部
コンビーナー：植原量行（東海大海洋）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会会長） 13:00-13:05
川上哲太郎（東海大学海洋学部長） 13:05-13:10

趣旨説明：植原量行（東海大海洋） 13:10-13:30
（駿河湾の大气・海洋・陸域・海底相互作用を明らかにするために）

(1) 大气・海洋・陸域・海底相互作用のメカニズムとその定量的理解のために

座長 小松大祐（東海大海洋）

[海・海相互作用（駿河湾と外洋）]

1. 高解像度データによる駿河湾・御前崎周辺の解析・・・瀬藤 聡（水産機構中央水研） 13:30-13:50
2. 御前崎沿岸域における集中観測・・・日下 彰（水産機構中央水研） 13:50-14:10
3. 駿河湾 1/10度グリッド海洋観測でわかったこと
・・・植原量行・成田尚史・小松大介・響田邦夫・千賀康弘（東海大海洋） 14:10-14:30

[大气・海洋相互作用]

4. 駿河湾周辺の気象・・・響田邦夫（東海大海洋） 14:30-14:50

[海洋・陸域・海底相互作用]

5. 駿河湾の堆積過程—Pb-210 堆積速度の空間変動—
・・・成田尚史・加藤義久・小松大祐（東海大海洋） 14:50-15:10

休憩 15:10-15:20

(2) 表層から深海に至る低次から高次生物生産の変動プロセスの理解のために

座長 西川 淳（東海大海洋）

[浅海と深海の相互作用]

6. 駿河湾の一次生産特性・・・吉川 尚（東海大海洋） 15:20-15:40
7. 駿河湾の漂流生態系～特に動物プランクトンについて・・・西川 淳（東海大海洋） 15:40-16:00
8. 駿河湾の生元素循環・・・宗林留美（静岡大学理学部地球科学科） 16:00-16:20

総合討論 座長 植原量行（東海大海洋） 16:20-17:00

開催趣旨：駿河湾は、湾口で2500mに達する日本一深い湾として知られていると同時に、サクラエビ・しらすなどの特徴的な水産物の産地として有名である。われわれは、このような水産資源を生み出す駿河湾の熱、物質の3次元的な循環と収支、それに伴う生物生産の時空間変動過程を、総合的に明らかにしたいと考えている。しかしながら、これまでの駿河湾の研究では、200m以浅の水温・塩分などの季節スケールの議論や、サクラエビなどの水産資源変動といった個別の議論はなされてきたが、駿河湾の大气・海洋・陸域・海底相互作用とそれに伴う生物生産の統合的な議論はほとんどなされてこなかった。それは、日本一深い駿河湾の表層から海底近傍までの物理・化学・生物を対象とする各種観測の困難さと、陸域からの淡水・物質供給量の定量的な議論の困難さによるところが大きい。本研究集会では、大气・海洋・陸域・海底相互作用のメカニズムとその定量的理解（環駿河湾の気候、駿河湾の熱塩分布の時空間変動と流れ場、降雨・河川水・地下水による淡水・物質供給）、そして表層から深海に至る低次から高次生物生産の変動プロセスの理解（基礎生産の実態、しらす・サクラエビに代表される水産資源の変動プロセス、中・深海生態系の解明）のために何が必要かについて議論する。